

継続する対話に、 確かな前提を引き継ぐ。

案件の対象範囲が変わり、作業が進んだのに、次の対話では古い前提で話が進む。

こうした場面で、更新された条件・進捗・次の作業を次回へ引き継ぎます。

次の開始時に適用方法を決め、AIによる応答の生成又は出力を制御します。

特許第7828517号 | 特願2026-009045

会話を保存するだけで終わりません。案件の現在地を次の対話へ渡し、その情報を応答にどう反映するかまで制御します。

適用を検討できる製品

生成AIとの対話を継続業務に組み込む製品が対象です。
案件ごとの条件・進捗・次の作業を次の対話にも引き継ぐSaaS、
企業向けAIアシスタント、業務システムなどで適用を検討できます。

利用場面の例

継続案件を扱うSaaS	企業向けAIアシスタント	業務システムの対話機能
案件の制約、進捗、 次に進める作業を、 次回対話の前提へ。	確定した条件と現在の 作業状況を、セッションを またいだ応答へ。	案件単位の引継ぎと、 対話で用いる前提の 適用を設計。

合同会社Stock&Loop | 特許ライセンス・技術協業・特許権譲渡の条件を個別協議

「記憶」を次の応答にどう使うか

汎用的なAIメモリーには、過去の情報を次の会話で利用する機能があります。

継続案件では、前回から変わった条件や進捗を捉え、次の応答への反映方法を決めます。

本特許は、引継ぎ情報の特定・記憶から適用判断、応答制御までをつなぎます。

請求項1の工程

対象製品で検討できる設計

1 | 動的情報を特定

前回の対話から、更新された条件・制約、進捗、次の作業を特定します。

2 | テキスト化・記憶

次回へ渡すテキストを作り、記憶します。

3 | 開始時に適用判断

次の開始時に読み込み、その使い方を決めます。

4 | 応答の生成・出力を制御

決めた態様に従い、利用者への応答の生成又は出力を制御します。

請求項1が規定する二つの制御

第1制御 | 履歴や引継ぎ情報に裏付けのない推測情報の出力を抑える。

第2制御 | 引継ぎ情報を必須の前提とし、同一条件下の生成結果の一貫性を維持する。

請求項1は、この二つの少なくとも一方を含みます。

継続案件で検討できる具体的な設計

継続案件では、前提が変わったときの優先順位、参照させる情報の範囲、保持する情報の分け方、根拠不足時の応答などを設計できます。以下は請求項に対応する具体例です。

新しい指示

保存情報と異なる場合は、次回開始時の新しい指示を優先。（請求項5）

参照範囲

引継ぎ情報と利用者属性だけを参照情報とし、それ以外の履歴を参照させない。（請求項6）

保持する内容

継続して適用するルールと、作業状態・関心対象・進捗の少なくとも一つを分けて保持。（請求項7）

根拠不足

推測情報を含む応答をそのまま出さず、「不明」と表示するか、利用者に確認を求める。（請求項8）

情報の矛盾

新旧情報が矛盾した場合、どちらを優先して記憶するか利用者に選択肢を示す。（請求項11）

※請求項11は請求項6に従属します。各構成の適用は、請求項の従属関係を含めて確認します。

継続案件での対話イメージ

前回の対話で案件の対象が国内に変わり、見積り確認を終えたとします。

次の対話に必要なのは、今有効な条件と、次に進める作業です。

前回の対話で更新されたこと

次回へ渡すテキスト情報の例

案件の対象範囲が「国内のみ」に更新。見積り確認が完了。次は提案条件の整理。

対象範囲：国内／進捗：見積り確認済み／次の作業：提案条件の整理。各項目を現在の案件状態として保持。

次の対話：「提案条件をまとめて」

開始時に引継ぎテキストを読み込み、その対話での使い方を決めます。

国内という条件と見積り確認済みの進捗を前提に、応答の生成又は出力を制御します。

履歴や引継ぎ情報に裏付けのない推測情報は、出力を抑える態様もあります。

製品にとっての意味

案件の現在地を引き継ぐことで、利用者が毎回同じ条件を説明し直す場面を減らし、更新後の条件・進捗を次の応答の前提として扱えます。

既存のAIメモリーと組み合わせる場合

既存のAIモデルや記憶基盤を使う場合でも、何を引き継ぎ、次回開始時にどう適用するかは製品側で決めます。過去の会話を参照するだけでなく、更新された案件情報を次の応答の前提として扱う点を検討します。

上記は説明用の仮想例です。具体的な実装と権利範囲は、対象製品の構成と特許請求の範囲を照合して確認します。

自社製品に適用する際の着眼点

製品に組み込む際は、何を引き継ぎ、次の対話でいつ・どう使うかを決めます。

案件が進めば、現在有効な条件、進捗、次に行う作業も更新されます。

以下の4点を、対象製品の画面と業務フローに沿って確認します。

導入時に決めること	協業先との検討内容
引継ぎ対象	案件単位と、更新された条件・制約、進捗、次の作業の範囲。
適用のタイミング	次回開始時に何を読み、新しい利用者指示をどう扱うか。
応答制御	裏付けのない推測情報の出力抑制や必須前提を、 応答の生成又は出力にどう反映するか。
利用者体験	引継ぎ内容の提示・確認・更新を、既存の業務画面や 業務フローにどう組み込むか。

導入検討の進め方

まず、セッションがどこで切れ、何が更新されるかを確認します。次に、開始時の適用方法と必要な応答制御を定め、請求項と対象製品の構成を照合します。

協業の形

実施許諾の対象製品・用途・期間・地域・対価に加え、実装・運用の分担を含む技術協業についても個別に協議します。特許権譲渡については、条件と金額を個別に協議できます。

権利情報と資料の位置づけ

特許第7828517号「プログラム、情報処理装置、方法、及びシステム」。本資料の利用場面は検討例です。具体的な実施範囲は特許請求の範囲と対象製品の構成に沿って確認します。

参照：特許第7828517号公報（請求項1～14）、OpenAI「Memory in ChatGPT」、Anthropic「Use Claude's chat search and memory to build on previous context」。公開資料の確認日：2026年9月27日。

お問い合わせ

合同会社Stock&Loop

info@stockandloop.com

自社製品への適用可能性、実施許諾、技術協業、特許権譲渡についてお問い合わせください。